

平成23年度第1回「仙北市立病院等改革推進計画」検証専門委員会

議 事 録

◆日 時 平成23年11月4日（金）17：40～18：58

◆場 所 角館交流センター 第1研修室

◆出席者 委員長他5名 合計6名

【市】門脇市長、病院事業管理者、両病院事務長等、医療局職員（事務局）

- ◆検証事項
- 1) 病院事業の決算状況について
 - 2) 仙北市立病院等改革推進計画の進捗状況について
 - 3) その他

—委嘱状交付—

皆様、本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。会議を始める前に、委員の皆様へ管理者から委嘱状をお渡しいたしますので、よろしくお願ひします。

～管理者が委員一人ひとりに委嘱状を交付～

—委員紹介—

—職員紹介—

1. 開会（17：40）

2. 管理者あいさつ（病院事業管理者）

今日は、お忙しい所をお集まりくださいまして、本当にありがとうございます。一週間ぐらい前から非常に寒くなりまして、角館の駅について非常に困ったと思いました。また少しこの所暖かくなりました。こうやって寒くなってくるんじゃないかと思います。やはりここでも資料をお渡ししてありますので、お読みになったと思いますが、非常に厳しい財政のもとに仙北市病院事業がなっていることがわかりだと思ひます。まあそれにしてもなくてはならない病院だと思ひます。たとえば資料1を見ていただきたいと思ひます。あとで事務局より説明があると思ひますが、上から3分の一ほどの入院患者の総売上数ですが、27,548円、これは非常に少ないんですね。他の病院だと3万は越えている。ただこれは国保なんかと比べるとシーソーのようですから、こっちが少ないと国保が楽になるという立場がありますから、そ

うとも言えないですが、ちょっと低い。それから外来患者が7, 135円。それで、田沢湖の方は23, 306円。それで外来患者が13, 882円。こういうところで非常に1人当たりの入院数が低い、外来数も低い。というふうになります。別にあこぎに高くとる必要はないが必要なものはきちんと必要で、あるいはまた落ちのないような請求をしなきゃいけないと思います。資料2を見ていただきたいと思います。資料の一番下病床利用率がございまして、病床利用率90%、やはりこれは90%弱、80.9%、90%弱でないと収益らしいものにはならないと思います。まあそんなに上げなくともよろしいかとは思いますが、やはりここにお集まりの先生方と連携しながら、仙北市を立派に安心できる医療を提供して行きたい。皆様方とご相談しながら、皆さんと情報を流しながら、手をつなぎながらやっていきたいと思っています。お忙しのところ、角館病院、田沢湖病院のためにおいでいただきましてありがとうございました。

3. 市長あいさつ

おばんでございます。ずっとお医者さんの皆さんと色々な所でお話する機会を意識的に多く作ろうとしているわけで、その時にちょっと大丈夫かなと思うことがあって、先生方ご自身も元気がないのが心配だなと。これは仙北市内の先生たちの話ではなく、秋田市内であったり、都内であったり、仙台であったりいろいろなところでいろいろな先生たちとお会いする機会をできるだけ多く作っている訳ですが、先生方が総じてかなりお疲れのようだというようにお見受けしています。人間様の命を何とか守っていかうという日々の努力には心から敬意を表しますし、頭の上がない、大切な仕事をしている方々がご自身の健康を捨てて仕事をされているのかなという不安を感じている状況に、実はあるわけです。どうかここにお集まりの先生方だけでもご養生させていただいて、市民のために日々の医療行為がしっかりとできるようにお願いしたいと思います。関係する方々たくさんいらっしゃいますので、あえて言う必要もないんですが、仙北市の角館の病院の改築にむけて候補として、用地の設定をいただきました。9月議会に報告させていただいてます4カ所について、この後12月議会等でいろいろ議員からも意見を頂戴できる機会ができたという状況であります。市としては、一刻も早く様々な方々の願いを叶えるためにも、新しい病院を建築し、その病院と地域の中の医療機関との連携をさらに深めて、保健の皆さん、福祉の皆さん共に手を携えて、地域の医療を守っていきたくております。日々お思いのことたくさんあると思いますので、今回は皆様に検証専門委員会ということでご委嘱させていただいておりますが、たくさんの方で、たくさんの方の思いを是非市当局、医療局の方にお届けいただければ、ありがたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

4. 委員長及び委員長職務代理者の選任

5. 検証事項

委員長

それでは、委員長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。では、議事に

入りたいと思います。次第に沿いまして、検証事項1「病院事業の決算状況について」事務局の方から、説明をお願いします。

資料説明（事務局：医療局）

資料1 「平成22年度仙北市病院事業の総括事項」

資料2 「市立病院等改革推進計画の数値目標に対する実績」

資料3 「市立病院等改革推進計画【数値目標】」

資料4 「両病院年次別外来・入院患者数の推移」

資料5 「両病院地区別利用者数（外来・入院）の推移」

委員長

ありがとうございました。ただいまの資料に対する説明につきまして、病院事業の決算状況、委員の方から何かご発言はございませんか。

委員長

それでは私から一つ伺いたいのですが、田沢湖病院のほうで、損失が前年度より増えているわけですが、総括のところで、光熱水費、燃料費の増加などによりという風に理由のほうを分析して述べられておりますけど、後ろの資料3の方でこの部分の光熱水費、燃料費というのは、どの項目に入っているのですか。

事務局（医療局）

それは支出のうちの医業費用の（3）の経費の中に分類されます。

委員長

わかりました。それでご質問するんですけども、たしかに前年度に比べて経費は増えてはおりますけれども、もともとの見込みの金額に比べてそんなに増えているわけではなくて、むしろ少ないというような状況で、もちろん前年度の実績に比べれば影響があるとわかりますが、これそんなに、これだけで、そういう風になったようにはこの表からは見えないというのが正直なところですよ。これ全部見てみますと著明に前年度から増えているあるいは見込みと大きく違っているのは、支出の部分で職員給与費が非常に高くなっている。前年度実績から3千万円、見込みからいいますと6千万円も差があります。ここのところがむしろ原因としては大きいのではないかという風にこの表からですと見えるのですが、この辺いかがでしょうか。

事務長（田沢湖病院）

職員給与費では、最初総括の方でも述べておりますけども、医師あるいは看護師の増加及び毎年の定期昇給分の増加ということで、給料分で20,721,000円の増となっております。あと毎月の応援診療のほうの経費ですけども、延べ人員で非常勤の秋田大学、岩

手医科大学等々の非常勤職員等の報酬ということで、月平均で100万円の増加となっております。これ料金改定いたしまして、だいたい角館病院あるいは他の病院と経費を同じぐらいの単価にして先生方をお願いしたいということで22年度から単価の改定をおこなっております。そのものを含めて、給与費ということで32,146,000円ほどの増となっております。対前年比なんですけども。あとは常勤医師が1人増加した部分で増加になってございます。内容的にはそういうところでございます。

委員長

具体的に、光熱水費、燃料費の増加はどのくらいなのでしょう。

事務長（田沢湖病院）

燃料費等々の増加でございますが、石油製品等の値上がりということで書いてございますが、光熱水費で1,948,000円ぐらい、燃料費で1,467,000円。これは重油代とかですね。そして経費の中の修繕費という所で、機械備品の修繕ということで、具体的に言いますと、オイル式の吸飲ポンプの修繕とかで、870,000円。消化管の汎用ビデオスコープの修理代で、820,000円。建物関係で空調機械の修理792,000円。冷却棟のコイルの修繕ということで347,000円。というようなことで、修繕費では全部で1,740,000円ほどの増加。あと賃借料では維持システムの更新を7月に実施したということで、2,830,000円の増加と。あとは委託料で16,869,000円の増加になってはいますが、これは7月から給食業務委託ということで、今までは給与費とか賃金とか各項目ごとに経費として見ていたものが、今度はそれを一括して委託料ということで、7月から実施した関係で、委託料が給食費だけで11,070,000円、委託料全体では、16,869,000円となっております。その他の5,000,000円ぐらいの増は、先程非常勤の先生方の報酬を言いましたけれども、その他に盛岡病院とか他の病院との契約で、診療応援委託契約というものをやっていますが、その分の増加分ということで、全部で委託料が11,070,000円ぐらいの増加となっております。これを全部合わせますと、経費25,649,000円になります。以上でございます。

委員長

今のお話を聞きますと、光熱水費のところの増加というのは300万とか400万とかそういう額にしか聞こえなかったんですが、それでいてこのような総括の書き方をするのは少々問題があるかと私は思います。それは私の意見というか感想ですが、もうちょっと具体的に増えたところは、ちゃんと分析して書くべきではないかと思えます。給与費については、医師が1名増えているのでそのところは当然増えると思いますが、やはり職員給与費がどんどん上がっていくという状況は、あまり望ましいことではないように思えます。これを見ますと医業収益3千万円増えている分を、全部職員給与費ですっ飛んでいくように見えますので、これはあまり望ましい姿ではないと私は思います。普通の場合は、医師が増えてもちろん給与費は上がるんですが、それよりも収入がずっともっと上がるというのが、通常期待さ

れるパターンではないかと思います。

他に委員の方、何かございませんでしょうか。

委員長職務代理

今委員長からご質問のあった田沢湖病院の給与費の問題なんですが、この実績で行きますと、23年度からの見込みの額が、やはりこれずっと477,492,000円で行きますよね。そうすると今年と同じ程度の診療体制をとるとすると、たとえば6千万円ずつ増えるとなると、損益が6千万円ずつ増えるということではよろしいですか。給与費が6千万円上がっているのに、見込みは6千万円引いている訳で、ずっと見込んでますので、そうすると損益の予定というのは164,227,000円ということになりますが、そういう計算で行くということではよろしいのですか。

医療局長

まず一つ。この計画はたしかに最初の推進計画を立てたままの見込みの状況になっています。実績でその差を補正していくという考え方でございまして先生が言われたように、たしかにこのままで行きますと、23年度の見込みが477,492,000円が、たぶん実績としては540,000,000円程度の見込みになるだろうと。ただもしそうであれば、上の方の料金収入の部分も今の診療体制を取れるのであれば、少しこの部分も増えていくと。相対的にそれがイコール損益の部分にまるっきりプラスされていくということには、若干プラスされる要素はあるでしょうが、そういう部分もあるということ、まずご理解を願いたい。あくまでも最初に申し上げましたように、この推進計画自体が最初の年に、こういう形で、角館もそうですけれども、このように推移して行くであろうという見込みで、5年分を作成したものでありますから、当然その作成した当時と今の状況では、若干少しずつ変わってきているということ、まずご理解いただければという風に思います。

委員長

他の委員の方、いかがでしょうか。

委員長職務代理

もう一つよろしいですか。角館総合病院の外来患者さんの単価が7,135円。そして田沢湖病院の外来患者の単価が13,882円。我々保険点数で言うと、713点と1,388点ですよね。普通713点と言いますと、最低の方の単価になる訳ですよね。これは。外来は普通我々考えますと、病院というのは我々よりも検査、CTとかMRIとか出来る機器も備えていて、これは少し角館総合病院の外来患者さんの単価は低いように思うのですが、いかがでしょうか。

医療局長

一番大きいのは、まず田沢湖と角館が違うのが薬の院内処方、院外処方その差であります。角館の場合はご承知のように、薬の部分については院外処方で処理しております。入院患

者のみ薬局で取り扱っております。田沢湖の場合は、院内処方、病院で薬を出しております。その差がこういう風な数値になって表れてきております。ご承知のように、先生言われたように、角館の7, 135円が薬を除いた部分で、その部分で低いか高いかという判断であれば、ご指摘の部分も当然であろうかと思えますけれども、大きくはそういう理由に数字として表れてきているということをご理解願えればと思います。

委員長職務代理

しかしこれ点数で見ると、院外処方をやっている内科系の先生方の平均点数は、1,000点を超えている。

医療局長

次回の時に、この7, 135円がどういう内訳になっているか、ちょっと今日資料を持ってきていないようでありますので、後でご説明をしたいと思いますので、よろしいでしょうか。

委員長職務代理

はい。しかしちょっと低いですよね。〇〇先生の所でも、1,000点行きますよね。

委員

私のところは低いです。薄利多売で。

委員長

まあうちなんかは、もっと低いですけど。

委員長職務代理

院外処方をやっている、620点か630点ですけども、内科系だと1,000点は。

委員長

内科だと普通はもっと高くなりますね。管理料とかいろいろ入りますよね。

医療局長

病院は管理料取れませんので。再診でも280点ぐらい。いずれこの7, 135円の内訳は次回の時にお示ししたいと思います。それと田沢湖と角館の場合も、病床数の関係で角館の方が低くなります。点数が。病院の場合は病床数によって単価がありますので。

委員長

他に、ございませんか。

委員

田沢湖病院はこれからも医師の数が不安定ですよ。まあ角館病院もそうでしょうけど。田沢湖病院は医師が1人減れば、たちまち困ってくるので、今後の見込みはどうか。でも角館病院は人件費が減ってくるじゃないですか。田沢湖病院は若い看護師さんが多いから、これから給料上がるとかそういうことでもないですか。角館病院の方が平均年齢が高く、田沢湖病院は結構若い看護婦さんが多いような気がするんですけど。職員の給与は、そういう意味では、これから上がっていく話でしょうね。

事務長（田沢湖病院）

今、先生が言われた年齢で見ると、そんなに田沢湖が角館と比して、平均年齢が低いということでもないと思います。結構いってます。職員給与費、見込みで今年度より下がる見込みにはならないと思います。年齢も上がっていくし、昇級もありますし、昇格もありますし、ここ1、2年で退職者が何人か出るかということその割にはいない。1人か2人ぐらいの人数なので、現状より下がる要素はないような気がします。というのは今、看護師さんが足りなくて、常勤、あるいは非常勤でもいいということで、角館も当然そうだが、両方とも募集をかけている。しかし応募者がいなくてなかなか採用に至っていない。病床利用率を上げるための入院患者数を増やすというような事になれば、今基準でもギリギリのところ、入院患者を増やせる状態ではないんです。これをやってしまうと13対1のところ、15対1の基準に下がって、かえって単価が下がり収入がおぼつかないという状態になるので、どうしても看護師の補充が必要だというのが、今の私達の目標となっております。

医療局長

いずれ人件費の動きについては、角館の場合は定年によって減っていくと。ただ全体の患者数とか比べて職員の配置の状況はどうかということを考えれば、医療圏の問題、人口の問題もありますので、やはり少しずつ病床を見直していかない限りは、ちょっと維持していくのは大変だろうと正直そう思っています。当初そういう考え方のもとにいきますと、23年度ぐらいで280床ぐらいまでに落とすのが本音であります。でも現状としては298で、18床ぐらいちょっとオーバーしている部分もあります。いずれ今の仙北市の状況を見ますと、田沢湖も60床は動かせない訳でして、それにいくらあればよいかという考え方をしていくならば、やはり角館の298は少しでかすぎるだろうと正直そう思っています。したがって職員の補充、特に看護師さんも含めて、先生方は別にしても、全体の職員の補充のあり方は相当慎重にせざるを得ない。それと、病床の見直しも一つのポイントだろうと。したがってそういう意味では人件費は上がっていくだろうと思います。田沢湖の60床は動く予定はありませんので、先生から何回も言われている部分、人件費というのはある程度横ばいの状況で動いていこうと思っています。ただ問題は上の収入の部分が確保できるかどうかという点にかかっているんだろうと思いますけど、いずれトータルで病床のあり方を考えると、病床の見直しは、どうしても必要になってくるとご理解いただければと思います。

委員長

ベッド数と看護基準を、どこでバランスを取るかということになると思いますが。

委員

あと今、単価の話が出ましたけれども、ぼくも病院にいるときに、単価が安いとかで、もっと検査をしろと科長会議で言われ、内心不愉快に思っていました。病院勤務時も私がいる時は、外来患者が減ると院長先生が怒っていました。10年前も前の話ですけど、そういう時代でした。今その病院は外来を減らして、検査を中心にしている。また院長先生が外科なので、手術を積極的にやって治療する方針のようです。だから、角館病院の先生にしろ、田沢湖病院の先生が数だけ言われて患者が少ないと言われると、一生懸命やっているのに、医者としてプライドが傷つけられるんですね。けども私は外来の患者さんを少なくして、先生たちが楽になってもらうために、減らしてその分私達が紹介しますので、検査していただきたいと思うんです。

医療局長

基本的には、そうだと思います。どうしても先生たちの数が増えない限り、外来も増やして入院も増やすのは至難の業でありまして、やはりどちらかに重点を置くとすれば、入院の方にシフトせざるを得ないと思います。やはり外来については、診療所や開業されている先生方をお願いしたいというのが本音であります。医師が少ないままで、両方をというのはまず100%無理だということで、そこらへんの仕分けの仕方も考えていかないとと思っています。それと一般病床の角館の27,000円には精神も入っていますので、どうしてもやはり一般病床のみの単価からいうと一緒になりますので、こういう単価になることも仕方のないことで、じゃあ精神止めますかということにはならない訳ですから、単価的には一般病床だけなら3万点は超えてるはずであります。精神の単価は、一般の半分程度にしかありませんので、少しずつそこいら辺を調整しながらやっていきたいと思っています。

委員

田沢湖病院で、薬の話で院内か院外と出ましたが、やっぱり院内にした方が利益は上がりますか。在庫抱えているとか言っていました。そういうものですか。患者さんの利便性を考えると、院外の方が大変だと思うんです。外の薬局に行って並んでとか大変だと思うんですけれど、田沢湖病院は、その方が利益も確保されるから院外にしないのですか。

医療局長

たぶん田沢湖も角館もそういう意味の数値上でいけば院内の方が若干上回るのではないかと思います。ただ田沢湖はともかく角館の場合は待ち時間の問題を考えると、将来薬剤師の確保の事も含めて考えますと、私は院外処方にしたのは正解だろうと思います。田沢湖は患者数を考えますと、角館のように待っていないなくても大丈夫なので、今現在そちらの方が、

利益の面で有利だと言うのであれば、あえて院外処方にするのは、今の時期はどうかのなかなと思います。いずれどこかの時点でそういう問題は整理されていくと、それはやはりお金との比較で検討せざるを得ないと思います。

委員長

田沢湖病院の場合は規模が規模ですから、たとえば全部院外にしたからといって、薬剤師を減らせるかということにはならないだろうと思います。角館病院の場合は全部院内にすれば、薬剤師さんが足りないということになると思いますので、その辺の問題は。

医療局長

この後薬剤師だけでも、もう3年ぐらいで、2名、3名ぐらい退職になる予定です。あえてそれを増やすかどうかという考え方にもなるでしょうし、患者さんの事を考えれば、やはり角館の場合は院外処方の方が私はいいだろうと思っています。

病院事業管理者

今、先生と委員長と局長で話したことはその通りだと思います。院外と院内は、やはり薬を10%ぐらいプラスして買わないと、消費税がどんどんつきますから益々損をしてしまうという感じになる。しかも薬剤師が必要になる。今の角館の薬剤師はむしろ病床に配置して、服薬指導をやるというのがこれからの道じゃないかと思います。やはり外来を減らして、入院を増やすというような、病院というのはそういう使命があるのではないか。先生方皆様に外来をやっていただき、病院は入院させるというのが本当の使命じゃないかと思いますし、私来て見て驚いたのが、常勤医とその他の先生の比率3対1なんですね。こんなに外来にドクターズをやっていると儲かるわけがないという気がしてます。そうかといって角館地区に他の診療科も必要なので全部放り投げて、入院だけにしてしまう訳にもいかないしそのへんのところが難しい。ここまで秋田が医師不足、看護師不足だということが、わからなかった。なんとかなるだろうという感じも多少あったんですが、やはり来て見て本当に厳しいなと。看護師も何対何という事を考えながらやらなきゃいけないし、外来の方もある程度気をつけてやらなきゃいけないし、今日の3人の議論がホントにその通りだと思いました。

委員長

この件に関しては、よろしいでしょうか。それでは次に2番仙北市立病院等改革推進計画の進捗状況について、事務局の方からお願いします。

2) 仙北市立病院等推進計画の進捗状況について

資料説明（事務局：医療局）

資料6 「市立病院等改革推進計画進捗状況」

資料7 「市立病院収支決算（過去3年分）」

委員長

ただいまの説明につきまして、どなたかご発言ございますか。

委員

素朴な質問で恐縮なんですけど、累積赤字。ずっと何億も累積になっていますが、あの赤字って借金なんですか。それとも1回1回チャラにして、以前からずっとこれだけ積み重なっているということですか。

医療局長

累積で14億とか7億いくらというのは、借金の額ではございません。決算上出てきた数値の積み重ねというので先ほど来、減価償却だとか消費税の問題とかいろいろ出てきました。現金支出を伴わない経費というのもあります。例えば例年ですと角館で、22年度は別なんですけど、1億いくら、實際上現金の動きというのはそういうような形にならない。入ってくるものに対して費用が、その中で一番大きいのが減価償却費、それから雑損の部分、消費税の振替の問題が出てきます。そういうので角館の場合は、1億7千万円近い数値が費用として、数値化せざるを得ない。そうしますとどうしても、計算上はよほど収入を増やせない限り、黒にならない。差引プラスにならない。そういう部分が決算としてずっと足されてきて、そういう風な感じになります。決していいことではない。ただ先ほど申し上げた部分、消費税を除いて、減価償却費は内部留保資金ということで、病院の予算で収益の部分と資本の部分、医療機械とか病院を建てるとかで決算に関係ない部分の予算もある。その補填に使われる部分もあります。その累積があるから、それが即銀行から借りている累計ではないですよということをご理解願いたいなと思います。

委員

わかりました。

委員長

他に、ございませんでしょうか。

委員

田沢湖の入院患者さんが増えてきて、角館がむしろ減っていった。あんな近くに、ど真ん中にあるのと思うんですけど、もっと病院の今消化器はパートの先生多いんですけど、それなりの実績を上げておられている。西野院長もポリープ切除もいっぱいしてるしと。実際、患者さんの話を聞くと、けっこう評判いい。みなさんお上手で。前に私紹介して胃瘻を作っていただいたりしていたんですけど、今の先生方は結構上手です。消化器はいろいろ大変だと思うんですけど、もっとアピールしてもいい。売りにしてもいいと思う。もうちょっと積極的に自分の病院の良いところをもっと出すべきだと思う。ホームページは見る人あま

り無いので、広報は結構よく読むので、もっともっとアピールしてもいいと思います。とても患者さんは痛くなかったとか、お上手ですと言ってる。

医療局長

今の決算の状況は、端的に仙北市の状況を私は表していると正直そう思ってます。と言いますのは、昔でいう療養も含めて仙北市がこれからの問題も含めて、どうしても必要な部分というのは、そういう部分だと。だからどうしても田沢湖の方が増えてくる傾向にあると。仙北市の状況そのものを反映しているんだと、私は思います。角館が微弱ながら少し減っていくというのもこれ仙北市の状況だろうと、正直そう思ってます。やはりそういう意味で考えるならやはり機能分担というのは、どうしても必要になってくるし、それをやらないままでの今の2つの病院がこのまま行くというのは、あり得ないだろうと正直そう思ってます。

委員

この間、組合病院で聞いた話ですが、消化器が4人から今度3人になるそうです。副院長の五十嵐先生に聞いたら、消化器はポリペクは年内予約がいっぱいと医師会でお話しされました。大学の消化器の教授は常勤医を増やす見込みはないと言っていました。

委員長

今、消化器内科医が、どこでも非常に不足している状況ですから、そういう意味で角館病院は、派遣みたいな形なのがちょっとネックではありますが、充実は非常にしているので、それはもっと表に出したほうが良いかと思います。残念ながら総合診療科が弱いのが一番の問題ではなかろうかと思いますが。

医療局長

そうですね。そうした意見があったと院長なり、副院長なりに伝えたいと思います。

委員

医療連携室がやはり病院の顔だと思うんです。特に私たち開業医とか診療所にとっては。私も困ってすぐそちらへ電話するんですが、概ね受け入れてくれ大変感謝している。この機能を、実は仙北組合病院も結構強化している。たとえばリハセンなんかはないです。けど向こうも入院患者を増やすのが目標みたいで、紹介するとわざわざ院長から紹介ありがとうございましたと添付されてきます。かといって窓口を作ろうとしない。人手不足かもしれないけど。だから直接先生に紹介するしかない。電話で。認知症の人だとか。さらに医療連携室を強化していただければ、私達も非常にお願いしやすい。例えば午後から入院お願いしたいと11時半頃や金曜午後に具合の悪い人が多かたりするもので。非常に上手くおかげで連携させてもらっているんで、更に機能を強化していただければと思います。それからもう一つ。修学資金のことで。医師を増やすための。結構申し込み多数で、今何人ぐらいで、将来何年先に医師が増える見込みなんですか。

医療局長

今の状況をお話ししますと、医師の方々が利用されておりますのが、今年の4月に岩手医科に入られた方が1名、それから秋田大学に入られた方が1名の計2名です。途中の学年ですけど秋田大学で2名の方が利用されています。ただそれがいつになるのかという事になれば、その途中の学年の方が利用された時に来ていただければ、何年後かということで、3年後ぐらいなのかなと。ただあくまでも貸し付けの1.5倍という条件ですから、期間短い事になりますが、私達は勤務も大事でしょうが、まず使っていただくことで、もう少しPRして、もう少し使いやすいようにと工夫はしていきたいと思っています。

委員

今4名。後7、8年。でも私は非常に有利な、得な奨学金だと思います。

医療局長

プログラムは他にないくらいよく組んだつもりであります。あとは使っていただける方々が他の方にもたくさんそういう制度があるでしょうから、見比べていただいてどっちが自分の得になるのか考えていただければわかると思いますけど、PRの仕方も必要でしょうし、もう少し検討して行きたいと思います。

委員長

他には、ございませんか。この件以外でもかまいませんが、その他を含めて何かご発言しておきたいことがあれば、ございませんでしょうか。それでは大分時間も立ちましたので、本日の検証専門委員会の議事はこれで終了させていただきたいと思います。今後の予定等については、いかがですか。

事務局（医療局長）

それでは今後の予定について、あらかじめご理解いただきたいと思います。今9月の上半期の業務状況報告、上半期分の決算が上がって来ますと、市民の方々の検証委員会を年内に執り行いたいと思っています。従いましてその市民の委員会を受けて、年明け先生方非常にお忙しい時ではございますけど、年明けに専門委員会の方をお願いしたいというような腹づもりでございますので、何とかお手数をおかけしますがひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

委員長

それでは、本日の第1回仙北市立病院等改革推進計画検証専門委員会を終わらせていただきます。どうもご苦労様でした。

(終了18:58)